

イー・ダブリュ・シー
EWC



エコクイズヒント 2月

1

すみ

『すみ』は、木を蒸し焼きにして作った燃料です。
日本では、石油やガスなどが使われるようになるまで、古くは平安時代から広く使われていました。現在では、キャンプやバーベキューなどのレジャー、茶道などに使われたり、飲食店での利用が多いようです。焼くときの温度や、使用する木材の違いにより、多くの種類があります。



2

お米からできているもの

『のり』というのは、「でんぶん」に水を足して、熱を加えるとできる、ねばりのある状態のことです。お米には、この「でんぶん」が多く含まれているので、昔はお米を使って、『のり』を作っていました。他にお米から作られているものには、『日本酒』『酢』『みそ』『お菓子（せんべい・団子・ポン菓子など）』などがあります。



3

ひきゃく

『ひきゃく』とは、手紙やお金などを運んでいた人、今までいう宅配人のことです。鎌倉時代には、京都と鎌倉間を連絡していた『ひきゃく』の存在が知られていますが、江戸時代になって特に発達しました。幕府公用のための継ぎ飛脚、諸藩専用の大名飛脚、民間営業の町飛脚などがありました。明治4年（1871）郵便制度の成立により廃止されました。

